総務文教常任委員会の概要について
（報　　告）

１．日　　時　　平成２５年８月７日（水）
午　前　１０時００分　　開　会
午　前　１１時５０分　　閉　会

２．場　　所　　大会議室

３．出席委員

委員長	瀬崎雅弘	副委員長	太田博之
委　員	舩見亮悦	委　員	西村盛男
委　員	小比類巻正規	副議長	堀　光雄

４．欠席委員　　委　員　森　三郎

５．事務局職員

局　長	中村健一	次　長	伊澤　徹
庶務係長	大塚英知	主　査	山本　聡
主　事	一戸　剛		

６．傍聴議員

議　員	髙橋武志	議　員	奥本菜保巳
議　員	野坂篤司		

７．説 明 員

教育委員長	熊野　稔
教育長	吉田　健
教育部長	山本文彦
教育委員会事務局市民スポーツ課長	向井忠晴
教育委員会事務局民スポーツ課副参事兼課長補佐	吉田喜実夫
建設部建築住宅課長	種市　浩
建設部建築住宅課課長補佐	石井　聡
建設部建築住宅課営繕係長	馬場誠一
副市長	米田光一郎
政策財政部長	中西敬悦
政策財政部政策調整課長	山本剛志
政策財政部政策調整課課長補佐	堀　憲明
政策財政部政策調整課課長補佐	田中　浩
政策財政部政策調整課企画係長	柿本尚人
政策財政部政策調整課交通政策係長	岩織香奈子
政策財政部ＣＡＴＶ情報課長	工藤英貴美

政策財政部ＣＡＴＶ情報課課長補佐兼放送サービス係長　　伊　藤　康　也

８．案　　件　(1)（仮称）国際交流スポーツセンター整備事業の進捗状況について
(2) 交通網の現状について
①各種路線バスの運行状況について
②三沢空港民間便の運航状況・利用状況及び利用促進活動について
(3) 三沢駅周辺整備事業の進捗状況について
(4) マックテレビの運営状況について

９．会議概要

瀬崎委員長：ただいまから、総務文教常任委員会を開会いたします。

なお、森委員から事前に欠席の届けがありましたが、定足数に達しておりますので、会議は成立いたします。

本日の案件は、（仮称）国際交流スポーツセンター整備事業の進捗状況について、交通網の現状について、三沢駅周辺整備事業の進捗状況について、マックテレビの運営状況についての４項目について調査してまいります。

それでは、１件ごとに調査してまいりたいと思います。

まず、１件目の（仮称）国際交流スポーツセンター整備事業の進捗状況についてであります。

それでは、執行部の説明をお願いいたします。

山本教育部長：それでは、（仮称）国際交流スポーツセンター整備事業の進捗状況について御説明申し上げます。

当該事業につきましては、御案内のとおり、老朽化が著しい現総合体育館にかわる屋内体育施設として、防衛省補助事業による整備事業として平成２２年度から関係機関と協議を進めてきたところであります。この結果、昨年６月に、防衛省所管の補助事業であるまちづくり支援事業として平畑地区に計画しておりました、（仮称）三沢市民ファミリースポーツ広場整備事業の計画変更として採択を得るべく、東北防衛局長宛て補助事業等計画変更報告書を提出するとともに、概算要求書を提出いたしました。本年１月には、実施設計に係る実施計画書を提出したところであります。

また、昨年度、市単独費による基本設計の策定に当たりましては、市民ニーズに適合した施設整備を図るとの観点から、市内屋内スポーツ関係者との意見交換会を開催するなど、関係者・関係団体等から賜った意見を参考に東北防衛局と協議を進め、先般、取りまとめを行ったところであります。

このような経緯を踏まえまして、５月２３日付で本年度の実施設計に係る補助事業等の内定通知をいただきまして、正式に事業採択が決定されたものであります。これもひとえに市議会基地対策特別委員会の要望活動をはじめ市議会の皆様の御支援のたまものと、この場をおかりしまして心から御礼を申し上げる次第であります。

また、実施設計業務につきましては、現在、発注手続中であり、今月末にも業者が選定

される運びとなっております。
　なお、基本設計の概要につきましては、この後、担当課から御説明を申し上げますが、施設規模、概要事業費等につきましては、あくまでも現時点における市の考え方であり、具体的には本年度の実施設計策定に伴う東北防衛局との協議によって変動する可能性がありますことを、あらかじめ御承知おき願いたいと存じます。
　私からは、以上でございます。
向井市民スポーツ課長：続きまして、基本設計の概要について御説明を申し上げます。
　お手元にＡ判の縦長、事業概要という資料と、Ａ３の横長、基本設計図、二つの資料を配付させていただいております。それぞれ御参照いただきながら御説明を申し上げます。
　それでは、事業概要のほうのＩページをお開き願います。
　整備事業計画でございますが、平成２２年度に基本計画を策定してございます。また、昨年度、基本設計を策定してございます。
　また、本年度、建物の実施設計並びに外構の設計を行う予定となっております。
　来年度、平成２６年度に建設工事に着手いたしまして、本体工事につきましては平成２８年度末、また、外構、備品につきましては、２９年度中ごろの完了を現在目指してございます。
　現在のところ、センターのオープンにつきましては、平成２９年１０月ということで現在作業を進めているところでございます。
　続きまして、２ページをお開き願います。また、図面のほうの１ページをお開き願いたいと思います。
　まず、建設場所でございますが、南山地区アイスアリーナ駐車場の向かい側、テニスコートとサッカー場の間にあります空き地、敷地面積は２万２，４９６．９７平米となってございます。この敷地の中に建物建築面積６，２７１．２２平米、延べ床面積、１階部分が６，１３４．１７平米、２階部分が２，９６５．２３平米、ペントハウス４８．１０平米、合計延べ床面積９，１４７．５平米と計画してございます。
　最高高さについては、２０．９５メートル。構造につきましては、鉄筋コンクリートづくり一部鉄骨づくり。基礎、屋根、外壁については、記載のとおりでございます。
　施設の内容でございます。図面のほうの２ページをお開き願いたいと思います。
　まず、１階部分でございますが、施設の中核となります競技場でございます。図面右側にメインアリーナを配置してございます。メインアリーナにつきましては、５２メーター掛ける４０メーター、２，０８０平米としてございます。なお、現在の総合体育館につきましては、３７メーターの３３メーター、１，２３４平米でございまして、相当大きくなるというようなことでございます。
　また、現施設にない施設としてサブアリーナ、第２体育場と位置づけておりますけれども、サブアリーナを計画してございます。こちらは３７メーターの２０メーター、７４０平米でございます。
　なお、メインアリーナにつきましては、バスケットボール、公式２面、バレーボールも公式２面、バドミントン、公式８面、テニス、公式２面、卓球、公式１５面を確保できる大きさとなってございます。

また、サブアリーナにつきましては、練習面として、同じく各競技、公式のコートサイズを確保できるということで計画してございます。

なお、１階部分につきましては、事務室または控室、ロッカールームなど附属施設を配置してございます。

続きまして、図面の３ページと４ページを御参照願います。

まず、４ページのほうをお開き願いたいと思います。２階に観客席、固定席を配置してございます。固定席は９９５席でございます。そして、大規模な大会、実業団とかプロの試合、バレーとかバスケットの試合のときには、３ページに戻りまして、１階部分に可動席として８１６席が張り出してくる計画としてございます。観客席につきましては、固定席、可動席、１，８１１席の計画でございます。

また、さらにこのほかにパイプ椅子等の配置によりまして、また結構な数の観客席を確保できるということで考えてございます。

４ページでございますが、４ページには観客席のほかに、図面左側でございますが、多目的運動場ということで、軽スポーツなどができるような部屋を計画してございます。

また、トレーニングルームも配置いたしまして、それぞれの利用者の方がスポーツの後に利用できるシャワールーム等の施設を配置してございます。

５ページ以下につきましては、断面図等の図面でございます。

ここで、イメージ図を委員の皆様に御参照いただきたいと思います。（イメージ図を回覧する）

それでは、スポーツセンターの概要については以上でございますが、当該事業はスポーツセンターとあわせまして防災機能ということで備蓄倉庫を計画してございます。再度図面の１ページにお戻りいただきたいと思います。

こちらの平面図の一番上側、北側になりますけれども、上のほうに三角の部分のところの真ん中に計画される建物を備蓄倉庫ということで、こちらに備蓄倉庫を併設いたします。

備蓄倉庫の概要でございますが、図面の８ページを御参照願います。

備蓄倉庫につきましては、建築面積１６２平米、１階建ての鉄骨づくりでございます。

備蓄内容につきましては、避難者数３，８００人と想定いたしまして、備蓄量３日分。備蓄品につきましては、アルファ米３万４，２００食、飲料水２万２，８００リットル、毛布３，８００枚、投光器３４台。以上を備蓄するということで計画してございます。

なお、こちらにつきましては、市長部局の防災担当との調整協議によりまして備蓄品を計画したところでございます。

では、資料のほうの５ページをお開き願います。

現時点におけます概算工事費について御説明申し上げます。

スポーツセンターの本体につきましては、現在のところ３６億１，３００万円と見込んでおります。また、備蓄倉庫につきましては３，２００万円、外構工事につきましては２億９，６００万円。事業に付随します備品購入ということで、各種スポーツの器具につきましては１億４，５００万円、トレーニングルームのトレーニング器具につきましては３，９００万円、テーブル、椅子、ロッカー等の調度品につきましては７，３００万円という

ことで、総事業費は現在のところ４１億９，８００万円と見込んでおります。

冒頭、部長から御説明ありました当該防衛省のまちづくり支援事業におきましては、現在補助額等につきまして防衛省と協議中でございますが、この事業は補助率７５％でございます。全体の配分等もありまして、今のところ本体工事と備蓄倉庫につきましてはまちづくり支援事業、８条で実施というふうなことで考えておりまして、その他外構、備品につきましては、その他防衛省の９条交付金または他の事業でというようなことで考えております。

具体的には、本年度、実施設計の額を出すに当たりまして、防衛省とどの部分まで…、どの部分というのは、備品購入につきましては８条ではできないというようなことになってございます。外構工事がまちづくり支援事業に入るかどうかということは、本年度決定するというようなことの状況になっております。

先ほど来申し上げておりますけれども、これは基本設計におきましての概算でございまして、具体的な工事費につきましては本年度策定される実施設計によりまして決まるということを申し添えたいと思います。

以上、基本設計の概要については、以上でございます。

瀬崎委員長：ただいまの執行部の説明に対して、委員の皆様からの御意見・御質問等はございますか。

小比類巻委員：今、この設計は基本設計の段階でして、実施設計が今年度内に発注になる予定なのですか。

向井市民スポーツ課長：現在、実施設計の発注業務をしておりまして、今月末に業者が選定されるというように契約担当課からは伺っております。工期につきましては、一応来年３月までということで実施設計が決まるというようなことでございます。

小比類巻委員：そういうことであれば、やっぱり委員会ばかりでなくて、議会議員全体に説明といいますか、していくのが求められるのではないのかなということで、実施設計に入る前に、できれば全員協議会なり、あるいは全員説明会なりを設けていただきたいなというふうに思っております。

私は、以上です。

瀬崎委員長：この件につきましては、私のほうからも議長のほうに申し入れいたしまして、検討したいと思います。

ほかにございますか。

太田委員：新しい体育館ができるということで大変期待しているわけですが、平面図を見たときに、いわゆる観客席が約１，８００、パイプ椅子等を入れると、多分２，０００近い人数が入られるのかなと思うのですね。その集客を考えたときの駐車場スペースが若干狭いかなと思うのです。これはアイスアリーナと共有するという意味で、この敷地内の駐車場が少ないということでよろしいのですか。

向井市民スポーツ課長：ただいま委員がお話しされたとおり、アイスアリーナ横の駐車場も大きい大会のときには使用するということで。それで現在お示ししています平面図の外構の部分につきましては、建築のコンサルタントが描いただけと言えば失礼ですけれども、なので、詳細につきましては、今後、外構設計でもっと敷地内に駐車場を確保できる

ような形で外構の設計をしたいと思っておりますので、御理解いただきたいと思います。
瀬崎委員長：ほかにございますか。
（「なし」と呼ぶ者あり）
瀬崎委員長：私のほうから、何点か。
すばらしい体育館ができると期待しておりますけれども、つくった後ですけれども、使用料とか維持費とか、それはどのぐらいというふうに現時点では考えておられるのか。
向井市民スポーツ課長：まず、使用料につきましては、現在のところ、まだ検討に至っておりませんので、これから完成に向けた段階で条例・規則を制定する中で決定していきたいと思います。
それと維持管理費につきましては、基本設計で具体的な電気料とか水道料を算定できないのですが、基本的な段階では、人件費等を含めまして９，０００万円ぐらいかかるのではないかというふうな見込みはありますけれども、こちらにつきましても実施設計の段階で、電気製品はこういうのが入って、水がこのぐらいかかるとかという具体的な数量が出た段階で、光熱水費等がもう少し具体的になりますし、あと、人件費につきましても、これから指定管理になるだろうと思うのですが、それを算定する段階におきまして具体的になるのですが、本当の大枠で９，０００万円程度はかかるのではないかというような担当としての数字は持ってございます。
以上であります。
瀬崎委員長：あともう一点ですけれども、電源についてなのですけれども、これは非常用電源も含めて多分設置されると思うのですけれども、ソーラーパネルとかそういうふうな自然光を使ったエネルギーも今回の設計に入るかどうかということは考えておられるのですか。
向井市民スポーツ課長：電源の関係ですけれども、多分電気となるのですが、図面のほうの１ページ目、平面図なのですが、建物で斜線等があるのですが、左側の下のほうに３本、斜めに長方形が示されております。こちらにはソーラーパネルの図面でございまして、ソーラーパネルを考えております。あと、一部風力発電も計画しております。電気につきましては、電力会社の電気とソーラーパネル、あと風力ということで考えております。
西村委員：こういった大きな案件ですので、全員協議会とかですね、説明会とかを開催していただければ、そちらでもみたいなと思っていました。１点だけちょっと確認させていただきたいのが、こちらの２ページにメインアリーナでバスケットとかバレーボールとか項目があるのですけれども、こちらに公式２面とか公式８面とかさまざまあるのですけれども、公式というのはどの規模の公式なのか、高総体レベルとかオフィシャルなプロのゲームができるとか、どの程度のレベルなのか、ちょっと説明いただければと思います。
向井市民スポーツ課長：各種スポーツにおきまして、まずコート面積の規格がこれは決定いたしております。また、そのほかにフリーゾーンということで、余裕の幅が示されているスポーツもあるのですが、現在の、例えばバスケットボールにおきましては国体レベル、日本最高峰の試合を開催できるというような規格で考えております。
また、通常２面なのですが、１面で大きい大会のときは開催するというふうに御説明申

し上げましたが、こちらにつきましては国際レベル、バスケット、バレーボールにつきましては国際大会も開催可能な規格ということで計画してございます。

以上であります。

瀬崎委員長：ないようですね。

ただいま委員から意見が出されましたが、少子高齢化など社会情勢の変化に伴い、高齢者の健康保持や青少年の健全育成、生涯スポーツ及び競技スポーツの推進は、今後さらに重要だと思っております。

また、市民のスポーツに対するニーズも高まる中、このたびの(仮称)国際交流スポーツセンター整備事業は、当市の体育スポーツ振興はもとより、スポーツを通じた国際交流の進展、さらには災害時における防災拠点としての活用など、大きな役割を担うものと考えます。

教育委員会の皆様には、ただいま出されました意見・提言等を十分踏まえ、本事業に取り組んでいただきたいと思います。当市スポーツのさらなる発展に努めていただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

ここで、説明員の入れかえのため、暫時休憩いたします。

午前１０時２５分　休憩

午前１０時２７分　再開

瀬崎委員長：それでは、休憩前に引き続き、会議を開きます。

それでは、調査項目２件目、交通網の現状についてであります。

近年、各種路線バスについては、自家用自動車の普及により利用者が減少し、運行本数の減少や路線の休廃止等、バスの維持存続が厳しい状況にあります。

また、空路については、本年、伊丹線、丘珠線、函館経由便が運航し、ことしはまさに三沢空港にとって大きな転換期であろうかと考えます。

そこで、今回は、当市公共交通のさらなる活性化を図るべく、交通網の中でも、①各種路線バスの運行状況について、②三沢空港民間便の運航状況・利用状況及び利用促進活動について調査してまいりたいと思います。

それでは、執行部の御説明をお願いいたします。

山本政策調整課長：それでは、まずはじめに、各種路線バスの運行状況について御説明いたします。資料のほうをごらんいただきたいと思います。

１ページ目でありますけれども、平成２４年４月から平成２５年３月まで三沢市コミュニティバス輸送実績の表であります。

運行系統別に１３系統がありますが、まず１番から４番は、北浜木崎野線が４路線あります。５番目の駅シャトル線が１便あります。北浜追舘線が６番目、７番目が北浜八幡線、８番から９番目が大津前平線、１１番目がビードル西線、１２番目、１３番目がビードル東線であります。

それでは、１番目の北浜木崎野線について順に説明いたします。起点としましては市立病院で、Ｂバリ通りを経由しまして、終点が六ヶ所村の追舘までです。運行日につきましては、日曜日、祝日が運休になっております。運行回数は、往路１便、復路１便でありま

す。実車キロ数は１万９，２８５キロであります。運行回数は５８０回ということで、実車キロ数から運行回数を割ります１路線のキロ数は３３．２５キロメートルが片道の運行キロ数になっております。利用人員は２，４９３名、１路線運行で平均４．３人となっております。運送収入は３９万１，２７９円。運送雑入につきましては、広告料などの運送雑収がありますが、１１万５，２７６円。営業外収益、これは預金等の利息が収益となっておりますが、１１万６，２５６円。運送収入、運送雑入、営業外収益を含めました経常収益が６２万２，８１１円。経常費用につきましては、実車キロ数１万９，２８５キロ掛ける２２４．８６円を掛けました通常費用が４３３万６，４２５円となり、こちらの１番目の路線につきましては、年間３７１万３，６１４円の損失となっております。

以下、２番目から１３番目までの路線につきまして、トータル的に４，０５５万８，２９７円が損失となっているところであります。

続きまして、２ページをごらんいただきたいと思います。こちらは、平成２４年４月から平成２５年３月までの三沢市内の路線バス輸送実績であります。

コミュニティバス以外のバスでありますが、４２番目が特急三沢線ということで、三沢空港から八戸の八日町までの路線であります。４３番目、４４番目が三沢百石線ということで、三沢案内所から百石中央までの路線であります。４５番目が上北線ということで、三沢案内所から上北町駅経由で七戸案内所までの路線であります。４７番目から４９番目までは北浜線ということで、三沢案内所から四川目経由で六ヶ所の追舘、塩釜、八幡までの路線であります。５０番目が通目木線ということで、三沢中央から通目木経由で六戸町の上吉田までの路線であります。５１番目の淋代二中線から５６番目までがスクールバスということで、淋代二中線、三沢小学校線、おおぞら小学校線であります。５８番目は岡三沢六戸高校線ということで、岡三沢温泉前から六戸高校に行くバスであります。８０番目から９１番目は十和田三沢線ということで、こちらは十和田観光電鉄鉄道線の代替バスによる路線であります。

以上、４２番目から９１番目の三沢市内を走っている路線であります。

なお、一番右端のほうに補助対象の〇、また、補助金交付額を記載しておりますが、こちらの補助金交付の期間でありますが、一番下に※１で平成２３年１０月から平成２４年９月までの補助金の交付額でありますので、対象月数が違いますので、実際の損益に対する補助金の額ではありませんので、参考値までに挙げております。

続きまして、３ページ目をごらんいただきたいと思います。３ページ目は、三沢空港連絡バス利用状況であります。

こちらの資料を見る前に、次の三沢空港民間便の運航状況・利用状況の資料の１ページも参考にごらんいただきたいと思います。こちらの１ページ目につきましては、三沢空港の出発便、到着便の飛行機の時間割を記載しておりますので、そちらに合わせてバスが出発しております。

東京便対応ですけれども、１便目、八戸八日町８時１５分発でありますが、三沢空港を９時４０分に出発する飛行機に合わせまして八戸を出発しております。八戸八日町を出発しまして、ハイテクパーク、三沢駅、三沢市役所、三沢空港の順に停車しております。まず、１便目の４月ですが、利用者数は１７４名、５月ですが２４９名、６月が１９５名、

７月が８４名の、４カ月間で７０２名であります。

続きまして、三沢空港を９時１５分発の状況でありますが、こちらにつきましては三沢空港に９時に到着する便に合わせて９時１５分に出発するバスであります。こちらは記載している場所を降車しているものであります。降車場所は、市役所、三沢駅、ハイテクパーク、八日町ということであります。４月につきましては１３８名、５月につきましては１６３名、６月につきましては１５８名、７月につきましては７４名、トータル５３３名であります。

あわせまして、２便、３便が記載しているとおりであります。

なお、八戸八日町発の八戸市内からの乗車割合ですが、八戸からの割合は８０．６％、三沢市内からの乗車ですが、２８２名の１９．４％となっております。

また、三沢市内での降車ですが、７５３名、３９．４％、八戸市内での降車につきましては、１，１６０名の６０．６％となっております。

続きまして、大阪便対応に対するバスでありますが、こちらにつきましては７月１日から三沢空港振興会によります実証実験運行によってバスを運行しております。こちらにつきましては、大阪便の１３時出発に合わせまして八戸八日町を１１時３５分に出発しております。八日町が７月は４０名、ハイテクパークはゼロ、三沢駅で乗車が２９名、市役所がゼロ、トータル６９名であります。

また、三沢空港の１２時４５分発でありますが、こちらにつきましては１２時３０分着の便に合わせまして１２時４５分に出発しております。こちらにつきましては、市役所が８名降車、三沢駅２６名降車、ハイテクパークがゼロ、八日町が４０名、トータル７４名であります。

続きまして、札幌便の対応でありますが、札幌便につきましては１１時３５分発の札幌丘珠線に合わせまして１０時１０分に出発しております。八日町が５２名、ハイテクパークがゼロ、三沢駅が９名、市役所が１名、トータル６２名であります。

続きまして、三沢空港前の出発でありますが、こちらにつきましては１１時０５分の出発に合わせまして１１時２０分に出発しております。市役所降車が３名、三沢駅降車が２９名、ハイテクパークがゼロ、八日町が４３名、トータル７５名であります。

割合につきましては、八戸のほうからの乗車ですが、５２名の８３．９％、三沢市内からの乗車が１０名で１６．１％であります。また、降車ですが、三沢市内での降車は３２名の４２．７％、八戸市内での降車につきましては４３名の５７．３％となっているところであります。

７月につきましては、全て７月１５日までの集計となっております。

続きまして、４ページをごらんいただきたいと思います。こちらは、三沢市地域公共交通会議についてであります。

設置の経緯でありますけれども、自家用車への依存などの高まりにより、バスなどの公共交通機関の利用者が年々減少しております。高齢者をはじめとする交通弱者の移動手段の確保や活力ある地域づくりを図るために、地域公共交通をめぐる課題を総合的に検討することが必要となっております。そのために、地域公共交通の現状を把握し、市民のニーズに応じた交通手段の確保や地域の実情に合った輸送サービスの実現に必要となる事項を

協議することを目的に、三沢市地域公共交通会議を設置したものであります。

次の組織の中で、委員の構成でありますが、(1)から(7)番目までの委員の構成となっております。三沢市長が指名する職員、一般乗合旅客自動車運送事業者の代表者が指名する者、一般乗用旅客自動車運送事業者が組織する団体の代表者が指名する者等々があります。

また、アドバイザーには、福島大学経済経営学類・吉田准教授にお願いしているところであります。また、オブザーバーには、三沢警察署の交通課長にお願いしているところであります。

続きまして、５ページをごらんいただきたいと思います。

協議事項でありますが、(1)地域の実情に応じた適切な乗り合い旅客運送の態様、運賃、料金等に関する事項、(2)市町村運営有償運送の必要性及び旅客から収受する対価に関する事項、(3)連携計画の策定及び変更の協議に関する事項、(4)連携計画の実施に係る連絡調整に関する事項、(5)連携計画に位置づけられた事業の実施に関する事項を協議するものであります。

これまでの取り組みとしましては、三沢市地域公共交通総合連携計画の策定、１００円バスと路線バスの再編によるコミュニティバスの運行、平成２４年４月１日から本格運行へ移行しております。また、十和田観光電鉄鉄道代替路線バス実証調査事業の実施、その他各種調査及び利用促進事業の実施を行っております。

平成２４年度の事業実績としましては、１、三沢市コミュニティバスの利用状況の調査であります。これにつきましては、市立三沢病院通院者ヒアリング調査、また、北浜木崎野線利用者アンケートを実施しております。

６ページをごらんいただきたいと思います。

２番、公共交通ガイドの改訂版の作成であります。

これにつきましては、ダイヤ改正にあわせ、公共交通のルート及び時刻表が一体となった三沢公共交通ガイドを作成しているものであります。これにつきましては、皆さんに御配付しております、こちらのガイドということになっております。

３番目、バス運行情報システム開発整備についてであります。

市立三沢病院正面入り口のみーばす発車案内モニターと市内３カ所の停留所――公会堂前、ミス・ビードルドーム、三沢駅前――に設置したあしあとランプを改良し、これまでのバス通過情報に加え、バスが到着する約５分前から接近情報の案内を開始しているところであります。

続きまして、７ページをごらんいただきたいと思います。

７ページの上の写真が、三沢市立三沢病院のみーばす発車案内モニターであります。

４番目、みーばす車両ラッピングでありますけれども、平成２３年度に一般公募から決定されたデザイン作品の車両ラッピングを４台実施したところであります。

続きまして、８ページをごらんいただきたいと思います。

５番の中心市街地誘客対策実証事業でありますが、これにつきましてはバス利用促進による生活交通の維持及び中心市街地への誘客を図るために、交通事業者、商業者等とタイアップしまして、中心市街地各協賛店で利用できる１００円割引券を配布してサービスを

行ったものであります。こちらにつきましては、４２店舗が参加していただいたものであります。

続きまして、９ページをごらんいただきたいと思います。

６番目、バス停留所標識整備でありますが、今まで標識につきましては左側の写真でありますが、まちまちのバスの停留所の標識でありましたが、右側のほうに統一したものであります。デザインを統一して更新したものであります。全１９１カ所を更新したものであります。

続きまして、１０ページをごらんいただきたいと思います。こちらにつきましては、三沢市地域交通会議の平成２５年度の事業計画であります。

１番目としましては、コミュニティバス等公共交通利用状況調査事業を行っております。平成２２年度から平成２４年度までの３カ年計画で実施しました総合連携計画の目標達成状況の検証、コミュニティバスの利用状況等を継続的に把握し、効率的かつ効果的な公共交通体系の確保・維持を図るとともに、さらなる利便性向上や利用促進に向けた課題検証のための各種調査を行っております。

また、調査結果や利用者の意見等を参考にしながらコミュニティバスのダイヤの見直しを継続的に行っているものであります。

また、上限運賃実施事業につきましては、実績把握及び効果検証をこの調査事業で行うものであります。

続きまして、２番目の中心市街地誘客対策実証事業でありますが、昨年に引き続きまして行うものであります。

また、公共交通マップの作成、４番のバス運行情報システム保守整備事業、４番目までは継続的に２５年度も行うものであります。

また、５番目のバス停時刻表改修事業につきましては、バス停ポールに設置されています既存の時刻表をＡ３版に統一して基本情報を掲示するものであります。

以上が、各種路線バスの運航状況等についてであります。

続きまして、三沢空港民間便の運航状況・利用状況及び利用促進活動についてを御説明いたします。

資料のほうをごらんいただきたいと思います。

１ページでありますが、先ほど見ていただきましたが、三沢空港発着便の８月１日現在の状況であります。

出発便につきましては、東京羽田便が３便、大阪伊丹線が１便、札幌丘珠線が１便、函館経由便が１便であります。到着便につきましても、同様になっております。

それでは、２ページをごらんいただきたいと思います。平成２５年度の三沢空港利用実績であります。

東京線の三沢－羽田線の４月の利用率でありますが、５３．７％、羽田－三沢線につきましては、４月は５４．４％、合計で５４．１％であります。５月につきましては、三沢－羽田線が５９．５％、羽田－三沢線が５８．３％、合計５８．９％であります。６月につきましては、三沢－羽田線が５７．５％、羽田－三沢線が５３．４％、合計５５．４％となっております。７月につきましては、三沢－羽田線が５８．８％、羽田－三沢線が５８．８

％、合計５８．８％となっております。

続きまして、大阪線でありますが、４月の三沢－伊丹線は４７．７％、伊丹－三沢線が５５．５％、合計５１．６％であります。５月は、三沢－伊丹線が６０．８％、伊丹－三沢線が７９．２％、合計７０．０％であります。６月につきましては、三沢－伊丹線が４５．２％、伊丹－三沢線が７７．１％、合計６１．１％であります。７月につきましては、三沢－伊丹線が４９．７％、伊丹－三沢線が７８．７％、合計６４．２％であります。

札幌線でありますが、７月から運航しておりますので、三沢－丘珠線が７６．８％、丘珠－三沢線が７３．１％、合計７５．０％となっております。

続きまして、３ページをごらんいただきたいと思います。三沢空港の利用促進活動についてであります。

三沢空港市町村で構成します三沢空港振興会と商工団体等で構成します三沢空港利用促進期成会が官民の役割を分担のもと、密接に連携しながら活動を展開しているところであります。

三沢空港振興会は、平成１４年５月２７日に設立しております。会長は三沢市長、副会長は八戸市副市長等々１６団体が加盟しております。事業の内容でありますが、三沢空港の機能拡充に関して国その他関係機関に対する要望等、関係資料・情報の収集、意見交換、三沢空港の利用促進に関する事業、その他目的達成に必要な事業を行うものであります。

平成２４年度の事業実績としましては、利用促進事業としましては、旅行商品造成支援事業、２番目としましては三沢－東京線利用助成金事業であります。

４ページをごらんいただきたいと思います。

３番目としましてはチャーター便誘致促進事業、４番目としましては東京ディズニーリゾートギフトカード贈呈事業、５番目としましては航空乗継利用促進協議会への参画であります。

続きまして、ＰＲ事業でありますが、(1)としましては、三沢空港にぎわい創出事業であります。

次に、５ページをごらんいただきたいと思います。

(2)番目としましては、学校では受けられない授業参画事業、(3)番目、空港利用拡大キャンペーン参画事業、(4)番目、三沢空港スカイフェスタ２０１２事業、(5)番目、三沢－大阪伊丹線就航記念事業、(6)番目、ＰＲに係る助成事業。

次に、６ページをごらんいただきたいと思います。こちらは、調査・要請事業であります。

一つ目としましては、航空会社等に対するプロモーション活動事業、２番目としましては、関係機関に対する要請活動事業、３番目としましては、航空関連の情報収集活動事業。

そのほかに、施設管理事業としまして、三沢空港無料駐車場除雪事業があります。

それでは、７ページをごらんいただきたいと思います。こちらは、三沢空港振興会の平成２５年度の事業計画を記載したものであります。

主な事業としましては、利用促進事業としまして、旅行商品造成支援事業、三沢－大阪

線利用助成金事業、キャンペーンツアー企画支援事業があります。

続きまして、ＰＲ事業としましては、空港利用拡大キャンペーン事業、次の８ページでありますが、広報ＰＲ強化事業、三沢－札幌丘珠線就航記念事業であります。

⑶番目としましては、調査・要請事業としまして、三沢空港プロモーション活動事業、情報収集活動事業があります。

⑷番目としましては、施設管理事業としまして、無料駐車場の除雪事業であります。

⑸番目としましては、本年度新たに行うものでありますが、二次交通確立実証運行事業でありますが、三沢空港発着便に接続する二次交通手段の確保を図るために、八戸及び十和田方面の特急連絡バス及び乗り合いタクシーの実証運行を行うものであります。これにつきましては、バスにつきましては７月１日から実証運行をしております。

続きまして、９ページをごらんいただきたいと思います。

こちらは、三沢空港利用促進期成会でありますが、平成１０年３月６日に設立しております。

組織でありますが、会長が三沢市商工会会長、副会長が八戸商工会議所会頭、十和田商工会議所会頭、むつ商工会議所会頭、一般社団法人三沢観光協会会長、六ヶ所村商工会会長が副会長になっております。理事につきましては、おいらせ農業協同組合代表理事組合長等があります。会員数につきましては、５６団体ということになります。

事業は、空港利用を促進するための各種事業、空港利用促進に関するＰＲ、情報収集、調査研究事業、空港機能の整備充実に関する陳情・請願等、その他目的達成に必要な事項であります。

以上が、三沢空港民間便の運航状況・利用状況及び利用促進活動に関することであります。よろしくお願いいたします。

瀬崎委員長：ただいまの執行部の説明に対して、委員の皆様から御意見・御質問等はございますか。

小比類巻委員：コミュニティバス輸送実績というところで、動けば動くほど赤字になっておりますね。そういうことを考えれば、交通弱者という人方の対応というのは、これは大変難しいものがあるなと。例えば今、１、２、３、４番の運行系統、起点が病院になっていますけれども、例えばこの利用者の方々というのは、やっぱり病院ばかりの人方ですか、あるいは通勤・通学の利用客というのはどの程度あるのですか。ちょっとそこのところをお伺いしたいと思います。

堀政策調整課課長補佐：お答えいたします。

北浜木崎野線の市立病院を起点にする系統につきましては、市立病院の移転に伴って新たに運行を開始した系統でございますので、基本的には病院の来院者を想定したものでございますが、病院の利用者だけではなくて、途中の一般の診療所あるいはスーパー等の商業施設を利用される方々も、この路線を利用されております。

以上でございます。

小比類巻委員：例えばそういう病院だとかということになると、そのついでに買い物をするのかもあるだろうけれども、例えば人員をまとめて、時間的に設定して搬送するような形態というのが考えれないものなのですか。

堀政策調整課課長補佐：お答えいたします。

路線バスにつきましては、委員先ほどおっしゃったように、走れば走るほど赤字ということになりまして、限られたバスの車両、人員等で利用者の方々の需要にこたえるというのは非常に難しい課題になっております。仮に利用者のニーズを集約して運行するということになりますと、その分効率は上がるかと思いますが、ただ、利用者の方々は御自身の都合によって、例えば病院の予約時間ですとか、あるいは買い物などに御利用されております。そういったことから、できれば現状のサービス水準を維持した上で多様なニーズにおこたえできるようなダイヤ設定あるいは運行本数を確保したほうが望ましいのではないかというふうには考えております。

以上でございます。

小比類巻委員：交通弱者のニーズにこたえるというのは大変大事なことだろうと思います。その中でも、やはりこういうふうな状況を見ると、どこを改善すればいいのか。一番いいのが利用客をふやすことだろうと思うのですけれども、そういう手段として何か考えておられるのですか。お客のニーズにこたえるために。

堀政策調整課課長補佐：お答えいたします。

利用者のニーズにこたえるために、コミュニティバスの運行当初から継続的な調査・モニタリングを実施してきております。また、直接、当課のほうに寄せられる意見や要望を踏まえて、絶えずルートやダイヤの改善を図ってまいりました。そのようなことから、先般も病院発の午後の便の北浜方面行きの直行バスがないというような御意見を踏まえまして、本年４月１日から病院発の北浜木崎野線のバスを増便しているところでございます。

そういったことから、また引き続き本年も病院利用者の調査なり、あるいは利用動向を継続的に把握して、より利用者のニーズにこたえるダイヤ改善を図ってまいりたいというように考えております。

太田委員：空港利用のほうの質問をさせていただきますが、こちらの民間空港の運航状況のほうの資料の２ページ目、４月から７月までの利用実績がここに一覧表になっているのですけれども、まず伊丹便が復活し、また、丘珠、さらには函館経由の便がふえて、大変私も市民の一人として期待をしているところなのですけれども、そうそう喜んでばかりいられないのが、やっぱり東京ですね。羽田が軒並み昨年より減ってきていて、５０％半ばというような数字になっているのですね。

その前に、１点確認させていただきたいのですけれども、いわゆる伊丹便、これを見ると、伊丹から三沢に来る搭乗率がかなり高いと思うのですね。逆に三沢から伊丹のほうが、４月は別として、５、６、７、２０％ぐらい違っている。特に６月は３０％ぐらい違っている。私は、この伊丹便というのは、どちらかというと原燃関係の方々の利用が多いというふうに聞いていたものですから、いわゆる伊丹から三沢に来た人たちは、仕事が終われば当然そのまま帰るのかなということになると、往復の搭乗率がほぼ同じような数字になるのではないかなと思っていたのが、２０％から３０％違う。これはどういうような形の要因があるというふうに分析されているのでしょうか。

山本政策調整課長：大阪伊丹線の往復の関係でお答えいたします。

大阪伊丹線につきましては、大阪から１０時５５分に出発しまして、三沢空港に１２時

３０分に到着しております。また、三沢空港からは１３時に出発しまして、大阪に１４時４０分に到着しております。その関係で、実はビジネスというよりは、大阪のほうからは逆に観光客のほうの利用がかなりあるのかなと。この利用者がそのまま三沢を使いまして大阪に帰ればいいのですが、大阪に帰る便が１３時に三沢発ですので、できれば観光となりますと、その分、もっと時間の遅い時間帯の飛行機で帰るということがあります。それにつきましては、三沢空港を利用しないで、例えば青森空港とか、そちらのほうの空港を利用して帰られるということで、三沢から行く乗客と大阪から来る乗客というのは、大阪から来るのですが、帰るときには、例えば青森空港から帰るということで利用者が少なくなっているという、こちらではそういうふうな現状を把握しております。

以上であります。

太田委員：わかりました。ビジネスも、それは確かにニーズはあるのだけれども、この数字というのは実は観光客が主流になっているということのあらわれだということですね。

確かに今、青森県は、そういった意味では大変パック商品とかが進んでいるということなので、逆に言うと、大阪のいわゆる観光商品といいますか、そういったものが充実してくれば、この数字というのはいい形にはどんどんなっていくのかなと。

いずれにしても、ダイヤの時間の関係というのもかなりあると思うのですけれども、ということは、我々は来るほうばかりでなくて、行くほうの対策もしなければならないということがわかりました。ありがとうございます。

それで、東京の便に戻るのですけれども、やはり主流は羽田便ということになると思います。先般、いわゆる無料駐車場の一部が、シルバー人材センターがあそこから出るということによって、多少台数がふえるのだよと。かなりニーズは高いと思うのですね。そうなったときに、やはりあそこをもっととめやすく、そして台数をふやすということを考えたときに、私はお祭りもちょっとやっているものですから、うちの中央町２丁目と１丁目、あと平畑が、あそこは山車小屋を使わせてもらっているのですね。あそこの山車小屋を、例えば移転跡地かどこかに場所を見つけてもらって移転すれば、あそこもかなりのスペースが出てくるのかなという気がするのですね。祭礼関係者は、ちらっとそういう話をすると、いやなるべく市内のほうに近いところで市のほうが準備してくれれば移ってもいいという、町内はみんなそういうような形で思っているのですね。今後、山車小屋を例えば移動させて、あそこをもっと広く台数を確保するという考えがあるのかないのか、お伺いしたいと思います。

山本政策調整課長：無料駐車場の拡張のことについてお答えいたします。

一旦、今は三十数台とめれるように拡張いたしました。今現在、シルバー人材センターは、あの場所でまだ活動しておりますので、今後、違う場所に動けば、まだ台数はふえる可能性はあります。まず、一旦その分を函館線、札幌線に合わせまして、急遽対応したものであります。将来的には、例えば山車小屋の移動も含めて、全体的に公園緑化公社もありますので、そちらのほうの部分も、できれば第一、第二という段階的に整備をしてまいりたいと考えております。

以上であります。

瀬崎委員長：ほかにございますか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

瀬崎委員長：私のほうから１点だけ。

いわゆる地域公共交通の会議というところでもっての組織ですけれども、これを見ますと、⑴番から⑺番までありまして、住民または利用者の代表ということで、三沢市商工会事務局長、三沢市社会福祉協議会事務局長、三沢市連合町内会理事、三沢市連合婦人会副会長、三沢市連合ＰＴＡ副会長という方が市民の声を代表して行っているというふうに思っているのですけれども、そのときにいわゆる市民の声というところでもっての、いわゆるダイヤの改正についてどのようなことを市に言われているか、ちょっと確認したいのですけれども。

堀政策調整課課長補佐：お答えいたします。

この交通会議を構成する住民または利用者の代表の方々は、個別の住民あるいは利用者の声を代弁しているというよりも、市全体の公共交通という観点から御意見を頂戴しておりますので、これまでの交通会議の中で個々のそういう特定の御意見を特に述べられたということではないので、その点については御理解をいただきたいというふうに思っております。

瀬崎委員長：何でこういう質問をしたかというと、いわゆる三沢病院が今の新しい場所に移ってから、非常に交通弱者の方の足を確保するというところで運行されているのですけれども、ただ、ある方が、いわゆるバスを使って８時半の受け付けに行けないという地域があるというふうに聞いたのですよ。いわゆる行けないので、結果的にはタクシーを使って行くという話がありまして、やはり８時半という受け付け開始ですので、市民の方が全員がそういうところに行けるような運行ダイヤというのは検討するような方針とか、そういう意見があったかどうかということも、多分ないと思うのですけれども、そういうことは今後検討してほしいと思うのですけれども、その点はいかがですか。

堀政策調整課課長補佐：お答えいたします。

市立三沢病院発着のバスの時間帯につきましては、お手元の公共交通ガイドにもバスの時刻表を掲載しておりますが、委員長御指摘のとおり、全ての地区の方々から、例えば８時半ですとか、あるいは受け付けの時間、全ての時間に対応するようなバスを確保するということにつきましては、現時点では非常に困難だというふうに考えております。その中でも、少ないバスの本数の中で、できるだけ効率的にルートダイヤ等を検討していきたいというふうには考えております。

瀬崎委員長：その点、よろしくお願いします。特に巡回バスとかというところの、若干コースの変更、時間帯だけ変更したりですね、全域を回れるとか、そういうところも含めて検討していただきたいと思います。これは要望でありますので、よろしくお願いいたします。

では、ないようですので、次に進みます。

次の調査項目３件目、三沢駅周辺整備事業の進捗状況についてであります。

東北新幹線全線開業に伴うＪＲ東日本から青い森鉄道への移管や、十和田観光電鉄鉄道路線廃止に伴う代替路線バス交通対策など、三沢駅の交通利用環境が大きく変化する中にあって、駅周辺整備は喫緊の課題であることから、今回、現状について把握し、意見・提

言をしてまいりたいと思います。

それでは、執行部の御説明をお願いいたします。

山本政策調整課長：それでは、三沢駅周辺整備事業の進捗状況について御説明いたします。

資料の１ページをごらんいただきたいと思います。

１、駅周辺の現状と課題であります。

三沢駅周辺の現状でありますが、十和田観光電鉄鉄道線の廃止に伴う代替バスの運行開始により、駅周辺の交通混雑が発生し、駅利用者等の安全性を欠いている現状があります。また、タクシー、送迎車両等のすみ分けがされておらず、安全性に欠けております。

大型バスの乗り入れスペースがなく、観光バス等の利用者の利便性を欠いております。

駅前地区の活力が低下している現状であります。

これにつきましての課題としましては、交通機能としまして、交通結節機能の強化、交通安全施設の再整備、安心で安全な歩行者空間の整備。また、商業・情報提供機能としまして、商業機能の拡充、観光・物産情報提供機能の強化。土地につきましては、土地の有効利用促進、これにつきましては青い森鉄道低未利用地、十和田観光電鉄旧駅舎、線路用地、筆界未定地。また、景観・環境につきましては、まちの顔としての空間形成としまして、三沢市における陸の玄関口にふさわしい三沢駅を求められているところであります。

これにつきまして、２番目の基本構想検討体制でありますが、基本構想の位置づけとしましては、上位関連計画、整備計画検討地の現況、駅利用状況等を踏まえ、三沢駅のあり方や課題を整理し、三沢駅周辺整備に当たっての基本方針を定めるものであります。

基本構想の内容としましては、三沢駅周辺整備のあり方、駅周辺整備の基本方針及び整備内容、想定される施設の配置・規模等の検討などがあります。

２ページをごらんいただきたいと思います。

三沢駅周辺整備基本構想策定に係る検討組織でありますが、地域住民、商工観光団体、民間事業者等で構成します三沢駅周辺整備基本構想検討懇談会、これにつきましては駅周辺整備のあり方などの意見を聴取し、基本構想へ反映させるものであります。

続きまして、三沢駅周辺整備に係る関係機関連絡会議、これにつきましては国、県、関係事業者、三沢市の計９名で構成するもので、関係行政機関及び事業者による駅周辺整備の実務的な協議・検討を行うものであります。

３番目としまして、三沢駅周辺整備庁内検討チーム、こちらにつきましては市の庁内関係課長７名で構成しております。これにつきましては、駅周辺整備に関する必要事項について調査検討するものであります。

この三つの検討組織が情報を共有し、相互の意見を集約、反映しまして、三沢駅周辺整備基本構想を策定するものであります。

３番目としまして、三沢駅周辺整備の基本方針案でありますが、交通ターミナルとしての機能強化、これにつきましては交通結節機能の向上、道路、歩道及び交差点の整備・改良、安心で快適な待合・移動空間の形成であります。検討施設としましては、バスターミナル、タクシー乗降場、一般車両停車場、歩行者通路、案内標識、駐輪場、駐車場であります。

次に、駅と直結する複合施設の整備であります。既存施設の集約化、観光・交通情報提供機能の充実、利便施設等の付加機能の充実、地域特性を生かした魅力あふれる空間創出であります。検討施設としましては、青い森たびショップ、バス発券所、飲食施設、待合スペース、案内標識、観光案内施設、ＡＴＭ、コンビニエンスストア、多目的スペース、交番等であります。

続きまして、３ページをごらんいただきたいと思います。

こちらにつきましては、三沢駅周辺整備の予定地であります。ピンクのマーカーと青のマーカーで示している部分が、計画の予定地であります。

青い部分につきましては、筆界未定地でありまして、筆界の所有者は十和田観光電鉄、三沢市、個人、国の道ということでなっておりまして、現在、筆界未定地の解消につきましては、青森地方法務局十和田支局のほうと協議している最中であります。

続きまして、４ページをごらんいただきたいと思います。

三沢駅周辺整備事業の検討状況でありますが、これまでの経過としましては、平成２４年１月３０日に三沢駅周辺整備庁内検討チーム第１回会議を開催しております。ここでは、駅前バスターミナル整備等に係る検討方針について検討したところであります。

その後、青森県の上北県民局、青森地方法務局十和田支局等々との打ち合わせを踏まえまして、８月７日に三沢駅周辺整備基本構想検討懇談会第１回会議を開催しているところであります。

最後の行でありますが、１０月３日に三沢駅周辺整備基本構想策定業務委託契約を株式会社出雲と契約を締結しております。

続きまして、次のページをごらんいただきたいと思います。

５ページですが、２段目の１０月１８日に三沢駅周辺整備に係る関係機関連絡会議第１回会議を開催しております。ここでは、三沢駅周辺整備の必要性と検討体制について、三沢駅周辺整備の方向性と課題について会議を開催したところであります。

続きまして、ことしに入りまして７月５日に三沢駅周辺整備に係る関係機関連絡会議第２回目の会議を開催しております。これにつきましては、周辺整備に関する調査結果報告、基本構想素案について、三沢駅周辺整備に係る今後の予定についてということで、今までの経過であります。

今後の予定としましては、第２回検討懇談会を８月下旬、住民説明会を９月下旬、筆界未定の解消は１０月から１１月中、基本構想の策定につきましても１０月から１１月中、基本設計につきましては平成２５年度から２６年度まで、実施設計につきましては２６年度から２７年度まで、整備工事につきましては２７年度から３０年度までの予定となっております。

以上が、三沢駅周辺整備事業の進捗状況についてであります。よろしくお願いいたします。

瀬崎委員長：ただいまの執行部の説明に対し、委員の皆様からの御意見・御質問等はございますか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

瀬崎委員長：では、ないようですので、最後の案件に移ります。

次の調査項目４件目、マックテレビの運営状況についてであります。

現在、当市マックテレビにおいてもデジタル放送化がなされて、また、デジタル有料放送をはじめとする各種サービスを実施されておりますが、今回はこれの現状について把握し、今後の運営、住民サービス向上に向け、意見・提言してまいりたいと思います。

それでは、執行部の御説明をお願いいたします。

工藤ＣＡＴＶ情報課長：市では、地域情報、公共サービス情報の提供など、高度情報化社会に適応したまちづくりを推進するため、三沢市ケーブルテレビジョン施設を設置しております。

平成９年４月に放送を開始し、平成２５年３月現在、引き込み世帯数１万７，０６３世帯、全世帯数の約９０％となっております。

実施事業といたしまして、自主制作番組の制作放送、市役所や消防からの緊急情報の放送、地上波テレビ放送の受信再送信、衛星ＣＳ放送等の再送信事業、インターネットサービス事業、広告放送事業を実施しております。

現在の運用状況について、自主放送のデジタル化に伴う変更について説明いたします。お手元の資料をごらんください。

①映像のハイビジョン化について説明いたします。

平成２５年３月にスタジオ設備等の改修が終了いたしまして、４月より自主制作番組は全面的にハイビジョン化したことにより、従来までの映像が不鮮明であったり、画面の左右が黒く欠けるなどの状況は改善され、デジタル放送本来の品質で情報提供をできる環境が整いました。現在のところは、過去の映像素材を使用する場合もあるため、部分的にアナログ品質の番組も存在いたしますが、段階的にフルハイビジョン編成となる見込みとなっております。

防災情報につきましては、昨年までの各種警報等の発表については、スタッフが警報を確認後に手動で発報していたことから、情報にタイムラグが生じておりました。Ｊ－ＡＬＥＲＴ装置と自動連携するシステム改修を行ったことにより、即時にＬ字放送による情報表示がされるようになりました。また、従来までは、警報発表中にＬ字放送が表示され続ける運用であったため、番組の視聴を楽しみにしている方々には御迷惑をかけることになっておりました。長時間にわたり警報が発表される場合は、途中から画面の隅に小さく表示されるよう改修を行い、視聴者に配慮いたしました。

火災情報につきましては、従来までの火災情報につきまして、番組を中断して割り込み放送を行う仕様であったため、発表中は番組が視聴できない状況でありましたが、防災情報と同様、視聴者に配慮し、Ｌ字放送とデータ放送の２段階での情報提供を行うよう改修いたしました。

次のページをごらんください。

ページ数が記載されなくて大変申しわけありません。

２番目の各種サービスの現状について説明いたします。

情報格差是正を目的に実施している有料サービスにつきましては、衛星再送信サービスについては平成９年から、インターネット接続サービスにつきましては平成１５年から実施しております。

衛星再送信サービスにつきましては、平成９年にアナログ放送方式で開始した衛星再送信サービスではありますが、平成１５年度から段階的にデジタル化を開始し、平成２０年度にはアナログ放送を終了して、その後、番組編成の変更を加え、現在のサービスメニューは平成２３年度より実施しております。

インターネット接続サービスにつきましては、民間による高速インターネットサービスが提供されていない地域の情報通信格差是正のため、平成１５年度から開始した事業となっております。開始当初は、無線を利用したインターネット接続サービスが主体でありましたが、より高速なサービスに対応するため、現在は旧共同受信施設の配線を利用する有線方式のサービスが主体となっております。利用者は、北部地区のＮＴＴ回線による通信回線整備が利用できない方が主体となっております。

サービスの運用状況につきましては、民間サービスが多様化したこともあり、加入者の状況は横ばいとなっており、収支的には歳入歳出同程度でございます。

次のページに加入状況の推移等の、加入の推移、それから年度別月平均加入数、これはＳＴＢ、ＣＳ、インターネット。それから、２４年度、２５年度の歳入歳出の見込みを掲載しております。

最後に、ワンセグ放送について説明いたします。

ワンセグ放送につきましては、防災を目的に、平成２４年度に総務省の補助を受け、平成２５年度３月２８日に開局したものであります。サービス開始を周知するため、３月号の広報やマックテレビ等での案内などを行ったほか、連動して動作する緊急速報メールにつきましても、５月１７日に実際の配信訓練を行い、市内の携帯電話に情報発信を行ったところであります。

利用促進につきましては、今年度中に三沢市のワンセグ放送についての認知度や利用状況についてアンケートを実施する予定であります。その結果に基づきまして、必要であれば販売店等に操作に関するサポートを依頼することを検討しております。機種や携帯会社等での操作方法が大きく異なるため、誤解が生じないよう、現在のところ、操作案内については控えております。

以上、簡単でありますが、説明といたします。

瀬崎委員長：ただいまの執行部の説明に対し、委員の皆様からの御意見・御質問等はございますか。

小比類巻委員：加入状況の推移等の、これは別紙か、別紙の平成２４年度、平成２５年度、歳入歳出の状況というのがありますけれども、有料放送で歳出がどれも上回っているのだよね。これはどういう支出なのか。

伊藤ＣＡＴＶ情報課課長補佐：お答えいたします。

平成１９年度から地上デジタル放送への移行の関係で、簡易型の比較的廉価なチューナというものを１，０００台ぐらいリースで導入しておるのですけれども、地上デジタルへの切りかえが大分進みまして、どちらかというと録画ができるような高機能なタイプのチューナの貸し出しが多いような状況になっております。まず、簡易チューナのリースがまだ切れていないという関係があって、２４、２５は歳出のほうが多いような状況なのですけれども、２５年度中にその簡易チューナのリースが切れる状況になりますので、２６

年度からはその辺の収支がまた通常のとおりに戻るような予定になってございます。
小比類巻委員：そうすると、今はかなり、大したことはないけれども、どのぐらいの利益になるの。収入がふえるの。支出が減ると言ったほうがいいのですか。
伊藤ＣＡＴＶ情報課課長補佐：支出のほうが減る形になってございます。
基本的には、料金を設定する際に、リース料とか番組料に準じて、それに若干番組表をつくったりとか、そういう経費がありますので、その辺を積み上げをした形で料金設定をしておりますので、料金の考え方としては、基本的にとんとんになるというような形になりますので、２６年度以降は有料放送についても歳入歳出がほぼ同等となる見込みでございます。
太田委員：ちょっと質問させていただきますけれども、自主番組、いろいろなアイデアを出して地域に密着した番組を一生懸命つくっていらっしゃると思うのですけれども、ただ、私はしょっちゅう見ているわけではないのであれなのですけれども、過去から比べると、自主番組がちょっと減ってきているのかなというイメージがあるのですけれども、自主番組の本数の推移を教えていただけますか。
伊藤政策財政部ＣＡＴＶ情報課課長補佐：済みません。ちょっと手元に資料を持ってこなかったのであれなのですけれども、大体自主放送の企画番組としては、本数的には７０本程度にはなっているはずでございます。
それ以外に、ニュースに関しては、開局当初は週にニュース番組は２回ということで、大体１週間で５本から６本程度だったのですけれども、途中から毎日の放送になりまして、毎日２本ずつぐらい取り上げていますので、週間で１０本ぐらいになりますので、年間で言うと５５０とか６００本ぐらいのニュースは取り上げをしております。ですので、開始当初と比べると、番組の本数的には大分ふえてきている状況でございます。
それ以外に、過去であれば、文字放送というのは、いわゆる手で打って、これで打ったようなものを流していたのですけれども、それに関しても、いわゆる庁内ランのネットワークと連動をかけて、各課から今は直接データ放送を出せるような環境を整えておりますので、それに関しても年間３００件ぐらいですか、文字放送とかデータ放送の提供がふえているというような形になっております。（発言する者あり）
済みません。ちなみに、２３実績で言うと、ニュースは４４６本でしたので、そういう意味で言うと、件数的にはニュースの件数が１００本程度はふえているような形になっています。
太田委員：減っていないと。ただし、私がイメージしているのは、そういうニュース番組とか定番のものではなくて、いわゆる企画物ですよね。そういったものの自主制作といったものが、やはり私はマックテレビの一番強みだと思うのです。また、地域のコミュニティーという部分のつなぎ役といいますか、マックテレビの役割はかなり大きいと思うので、今後もいろいろなアイデアを出して、そしてより市民の皆さんが参画する、参加をする番組というのをぜひ今後も続けていってもらいたいと思います。
そこで、いわゆる今はソーシャルネットサービスという形で、ネット上の動画配信だったり、そういったのがほとんど主流になってきておりますよね。私は、何回もいろいろな予算委員会とか条例の席でも言うのですけれども、いわゆる三沢市もツイッターとかフェ

イスブックページをつくったりとか、そういうのをやるべきだと言っているのですけれども、なかなかやっていただけない。他市は、本当に青森市もこの間、フェイスブックページをオープンして、見ると大変情報量が満載ですばらしいなと思います。

私は、市長部局がやらないのであれば、マックテレビが独自にフェイスブックページをつくって、まさに先ほど言ったコミュニティーの一つの中核を担う課なので、私は自主的に我が課がマックテレビのフェイスブックをつくってどんどん情報発信をするのだと言えば、私は副市長は反対しないと思うのですよ。どうですか、積極的にＳＮＳを取り入れて、まさに情報を扱うマックテレビがこれに乗りおくれることなく、ぜひやっていただきたいと思うのです。そういうお考えはありますか。

中西政策財政部長：ＳＮＳ・ソーシャルネットサービスですか、これにつきましては、非常に有効だというのは全く同じ思いでございます。

どうしても我々が慎重にならざるを得ない部分もちょっと御理解いただきたいのですが、先般の選挙でも若干のトラブルもあったようですし、決してやらないというのではなくて、やりたいのですけれども慎重にという、行政独自の悪い部分が出て大変申しわけございません。８月に今ですね、アンケート調査等も実施するそうでございます。

探りながら実際はやっていまして、２年ほど前でしょうか、ビードルの小さなお土産、あのときにちょっとツイートを流してみたのですが、ちょっとやってだめだったのですけれどもね。それは一つのものについてだけの話でしたから、委員さんがおっしゃっているのとは違うのですが、決してやらないってこだわっているわけではございませんので、ちょっと御理解いただければということです。

太田委員：本当にどんどん加速的にふえているのですね。先ほどのツイートも私は見ました。あれは、やはり継続なのですよ。常にいい情報をきちっと出し続けると、フォロアーもふえてきますし、信頼度も上がりますし、まして三沢の独自のＰＲにもつながるわけですから、行政がまさにこの世界に新しい境地を開いているというところが今の現場だと思いますので、臆することなく、ぜひともソーシャルネットの部分に果敢に挑戦していただきたいと思います。

そこで、私はこの間、科学館のイベントで弘前のほうに出前授業という形で行ってまいりました。その際に、アップルウェーブさんの生中継の取材を受けました。私は、当然、アップルウェーブはＦＭ放送なので、ラジオの電波上の生中継のあれなのかなと思った。確かにラジオももちろんだったのですけれども、ｉＰｈｏｎｅを出して、ｉＰｈｏｎｅを三脚に立ててそっちで撮っているわけですよ。何だ、それと言ったら、いやユーストリームで動画を生中継で配信するのですと。えー、すごいですね。

詳しくは中身は聞きませんでしたけれども、本当に安い経費で、端末の、いわゆるネットのあれにつながるので持っていけばいいわけですよね。それを利用して、いわゆるユーストリームに生で我々の出前授業を発信したのですよ。そうしたら、発信して２分したら、私のアイホンが鳴って、見たらフェイスブックに、ドバイに行っている友達がいるのですけれども、今見たよと、出てるよと。　まさに、だからネットの世界なので当たり前のことなのですけれども、私はすごいことだなと。

まさにマックテレビが、いわゆるそういったソーシャルネット、ユーストリーム、さま

ざまな動画配信がありますよね。あれを取り入れて、本当に経費はかからないと思いますよ。どんどんああいった情報発信というのに取り組むというのは、私は必要だと思うのですけれども、いかがですか。

中西政策財政部長：まずは言いわけからいたします。

やはり方向性決める私どもが時代の波に取り残されているというところがございまして、大変申しわけございませんが、実際に災害につきましても、ちょっと今は所管の者がいないので、うろ覚えで申しわけないのですけれども、現場から携帯を使って現場状況を即送るというような形も今はやっているようです。これは確定ではなくて、私の聞き及んだ推測なのですけれども。そういったこともございまして、これは災害に関係なく、いろいろなイベント、それから情報発信、そういったものには非常に有効だと思いますので、ぜひ前向きに検討させていただきたいと思っております。

太田委員：私が言っているのは、例えばフェイスブックとか、ああいう情報発信系とは別に、いろいろないい番組をつくっているわけですよ。どんどん投稿して、やっぱり世界から来ているわけですよ。ここに赴任していた人が、例えば本国に戻ったと。ちょっとユーストリームを検索したら、三沢まつりが流れていたと。懐かしいなと。みこしのフェスティバルを中継するのに、俺の友達が映っていたとか、それはそういった臆病になる情報発信の世界とは全然別に、今やろうと思ったらすぐやれることなのですよ。ですから、若い職員、当然中身は覚えていると思うのですよ。だけど、やっぱりそれをゴーを出せば、本当に三沢のああいう自主番組だったり、ちょっとした中継に生放送だったり、全国にいる自衛隊のＯＢだったり、三沢にいたことのある人方が、いろいろ部分で三沢を懐かしんだり、情報を共有できる。私は、本当にお金はかからなくてすばらしい事業だと思うので、今後、ぜひ前向きに検討していただきたいと思います。これは要望ですので、答弁は必要としません。

瀬崎委員長：ほかにございますか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

瀬崎委員長：では、私のほうからちょっと。

いわゆるテロップの話なのですけれども、火災情報は約１０分後ぐらいにテロップが流れて、データボタンを押せば場所がわかると。それ以外の情報メールで、例えば熊が出ましたとか、不審者が出ましたとか、いろいろな情報が出てきているわけなのですけれども、それをマックテレビでテロップ化というのはできないものなのですか。

伊藤政策財政部ＣＡＴＶ情報課課長補佐：情報としていただければ、いつでも発信はできる状況になってございます。現状の運用でございますけれども、今、いわゆるデータ放送の入力については各課にアクセス権を与えて、直接データ放送を打てるような形に環境を整備しております。データ放送に出た情報というのは、いわゆる今はＬ字放送の文字放送というのをやっているのですけれども、そこに自動で反映されて放送されるというところまでは環境を整備しておりますので、それ以上に非常に事態が大きくて番組を中断してでも流さなければいけないということであれば、当然、センターのほうにあるスタジオ設備を使ってということになりますので、いわゆる連携はちょっと難しいのですけれども、現状であるとそこまでの整備は既にされている状況でございます。

以上でございます。

瀬崎委員長：やはり熊が出ましたとか、一応放送はかかるのですけれども、やっぱり聞き取れないという話が多くて、あと、情報メールの携帯を持っている方はそれで知ることができるのですけれども、それ以外の方が全然知る情報がないという意見がございますので、ぜひそういうふうに情報メールで発信する内容につきましては、やはり積極的に市民の方に情報を発信するということを検討していただきたいと思います。

あともう一点なのですけれども、ことしの３月からワンセグ放送が開始になったのですけれども、きょう来ておられる執行部の方は携帯電話で受信されましたか。まず質問します。受信できた方はいますか。（発言する者あり）

何でこういうことを聞くかというと、あれはいわゆる資料にあるとおり、市内のある設置場所から５００メーター以内しか聞けないということで、私は浜三沢ですので、うちの横にあるのですよ。いつでも見れるのですけれども、ただ、ワンセグにした時点で、通常のチャンネル設定ではできないと。広報みさわの３月２７日から開始しますという案内がきょう説明あったのですけれども、携帯によって非常に難しいからそれぞれやってくださいという話になっているのですけれども、私は自分の携帯の説明書を見てもやり方がわからないのです。結果的には、マニュアルでチャンネルが３３とかというところでマックテレビがちゃんとひっかかったんですよね。

機械に精通している私でさえそこまでかかるということは、お年寄りとかそういう人はもっと時間がかかると思うのですよ。ということは、いざ災害が発生したときに、マックテレビを見ようと思っても見れないという状況があると思うのですよ。ですから、今回の説明で各種携帯の取り扱いでもって案内を控えているという話でありますけれども、やはりこれは市民の安全を守るという話でありますので、ぜひともそういうところは、操作方法とか、例えばどこのチャンネルでヒットしますよとか、そういうふうなある程度の補足説明ですか、あれが必要かと思うのですけれども、その点はどうですか。

伊藤ＣＡＴＶ情報課課長補佐：お答えします。

確かに公告面だけ見ると、非常に大ざっぱな説明にしかなっていないというのは理解できるのですけれども、実際のところ、私どもはあれを出すに当たって、各キャリアとか各メーカー、あとカーナビですか、その辺にもいろいろ情報をとりましたけれども、なかなか統一的な操作方法というのを提示するのが非常に難しくて、一応私どもも一部なのですけれども、各携帯キャリアごと、各メーカーごとの取扱説明書を入手しております。当然問い合わせがあった際に、問い合わせがあれば機種が限定できますので、手元にある資料であれば可能な範囲でのサポートということはさせていただいているのですけれども、やっぱりちょっとなかなか操作が難しい部分がありますので。

実は自主放送についてのアンケートを毎年行っているのですが、今回はその中に、まずワンセグ放送を知っているかとか、操作方法がわかりますかというようなこともアンケートの内容に入れてございます。年齢的な部分も含めてアンケートをとっておりますので、その辺でちょっと特定の年代で操作が厳しいというのがあれば、三沢も大手の３キャリアの販売店がございますので、そこにもちょっと協力をお願いしたりとか、あとはカー用品の販売店、そういったところにも御協力をお願いするというようなことも含めて、これか

ら検討してまいりたいと考えております。

瀬崎委員長：ぜひお願いいたします。

ちなみに、きょう朝、私の車のカーナビでテレビをやったのですけれども、やはりマックテレビの受信ができなかったのですよ。だから、かなり難しいと思いますので、やはり少しでも、通常の受信ではできませんはわかります。それ以外に、マニュアルでもって、例えばどこどこのチャンネルに合わせてくださいとか、そういうふうなわずかな説明でもいいと思うのですけれども、そういうところを含めて今後検討としていただきたいと思いますので、答弁は結構です。

ほかにございませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

瀬崎委員長：では、ただいま委員の方々から多くの意見・質問が出されましたが、特に公共交通のバスにつきましては、走れば走るほど赤字ということがありますけれども、やはり市民の足ということでありますので、そこのところを辛抱強く会議を開いていただいて、市民のニーズをよく見て行っていただきたいと思います。

また、マックテレビにつきましては、やはりこれは三沢市内のことを発信する情報がありますので、市民の方がより活用しやすいというようなところの制作等を頑張っていただきたいと思います。

以上で、本日の案件は全て終了いたしました。

なお、この所管事務調査につきましては、今定例会で委員長報告をすることになりますが、その内容については正副委員長に御一任いただきたいと思いますが、よろしいでしょうか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

瀬崎委員長：それでは、そのようにさせていただきます。

最後に、当委員会の先進地視察について委員の皆様から御意見を伺いたいと思いますので、執行部の皆さんにはここで退席いただきたいと思います。

執行部の皆さん、本日はありがとうございました。

済みません。大分時間が長くなりましたけれども、それでは先進地視察についてですが、時期、調査事項、視察先について委員の皆様から意見を伺いたいと思います。

（「正副委員長一任」と呼ぶ者あり）

瀬崎委員長：正副委員長一任ですか。

じゃあ、正副委員長一任とありましたので、先進地視察については、私と副委員長でもって進めさせていただきたいと思います。

これをもちまして、総務文教常任委員会を閉会いたします。どうもお疲れさまでした。

午前１１時５０分　閉会

以　　上

委　員　長　　瀬　崎　雅　弘